た。出品者161人、239点であった。

昭和62年（第41回岩手芸術祭）'87　写真連盟20周年

役員は全員再選された。「岩手県写真連盟20年誌」発行に着手資料収集や座談会など、精力的に取り組んだ。第41回岩手芸術祭は各部門とも会場として県民会館を希望していることから、三期制をとることになった。審査員は前回に続いて2回目の東松照明氏に依頼した。

昭和63年（第42回岩手芸術祭）'88　20周年記念誌

役員は全員再選された。岩手県写真連盟発足20周年を節目に、20周年記念誌の発刊にこぎつけた。資料の分散埋没が今後も続くことを考え合わせると、不完全ながら完成をみたことは関係者の努力の賜であった。出品者130人、191点であった。審査員　奈良原一高氏

平成元年（第43回岩手芸術祭）'89

役員は続投、台湾の高雄市のカメラクラブ「寿山撮影倶楽部」から、日本の紅葉を撮影したいので、と案内の要請が写真連盟に入った。一行五名と小岩井農場で交流を行った。その後八幡平から十和田へと案内した。第43回岩手芸術祭は審査員に写真家の高梨豊氏を依頼した。出品者は、145人、197点であった。

平成2年（第44回岩手芸術祭）'90

役員は全員再選された。第10回岩手県写真連盟展には、前年来日した台湾のカメラクラブ寿山撮影倶楽部からの出品があり10回展に花を添えてくれた。第44回岩手芸術祭には審査員として前年に引き続き写真家高梨豊氏を依頼した。出品者145人、200点であった。

平成3年（第45回岩手芸術祭）'91　会員名簿

役員は継続、岩手県写真連盟会員名簿を作成した。第45回岩手芸術祭は審査員に三菱フォトコンテスト常任審査員の柳谷次男氏を依頼した。出品者134人、170点であった。

平成4年（第46回岩手芸術祭）'92

役員は全員再選された。第46回岩手芸術祭は、平成5年に第8回国民文化祭が岩手県で開催されることから、その予行演習的にサイズを全紙パネルに統一した。会場も同じ会場となる川徳デパートでその展示方法や照明などの点検も兼ねて開催された。審査員は写真家の土田ヒロミ氏に依頼した。出品者158人、234点であった。

平成6年（第47回岩手芸術祭）'94

役員は続投、第3回全国ボランティア・フェスティバル岩手大会の記録撮影に県下の会員10名があたった。第47回岩手芸術祭には女流写真家の沼田早苗氏を依頼した。出品者148人、191点であった。

平成7年（第48回岩手芸術祭）'95

役員は全員再選された。連盟展も15回目を迎え、同じものを地方で展示ができないものかと議論された。人手と経費の問題で実施が難しく先送りされた。第48回岩手芸術祭は審査員をカメラ雑誌「日本カメラ」の編集長梶原高男氏に依頼した。出品者168人、211点であった。